

平成28年度日本小児外科学会  
第4回定例理事会議事録

日 時：平成 28 年 10 月 26 日（水） 10：00～14：30

会 場：ソニックシティ 会議室 905

出席者：黒田達夫（理事長）、中野美和子（秋季シンポジウム会長）、越永従道（副理事長）、  
仁尾正記（理事・会長）、窪田正幸（理事・副会長）、八木 實、漆原直人、  
米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、廣部誠一（以上理事）、上野 滋、濱田吉則、  
前田貢作（以上監事）、渡井 有（財務会計委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、  
浦尾正彦（財務会計副委員長）、和田 基（庶務委員）、村上 聡、  
仁田尾慶太（事務局）

欠席者：菱木知郎（庶務委員長）

はじめに先般逝去された名誉会員 Dr. Jay L. Grosfeld に哀悼の意を表し、全員で黙祷した。

議事案件：

議 事：

1. 第4回定例理事会の議事録署名人は、越永従道副理事長、米倉竹夫理事とした。
2. 中野美和子会長より第32回秋季シンポジウムについて開催準備状況が報告され、了承された。
3. 平成28年度第3回定例理事会議事録につき、事前配信された内容について確認され、修正点等あれば1週間を目途に事務局に連絡することとした。

4. 報告事項

1) 理事長報告（黒田理事長）

（1）日本医師会からの通信文「平成 28 年度日本医師会医学賞等受賞者決定の報告」を受領した。

（2）川野小児医学奨学財団からの通信文「第 28 回研究助成金交付に関する御案内」を受領した。

（3）日本医学会連合からの通信文「経産省・厚労省・文科省から倫理指針見直し説明文」を受領した。

（4）緊急性の低いその他受領した資料については、次回理事会時とすることが報告され、了承された。

2) 総合調整委員会報告（越永副理事長）

10月5日に予定していた総合調整委員会は、台風の影響で延期になったと報告があり、振替については2017年1月24日13:00～16:00で開催することが了承された。

### 3) WOFAPS報告 (奥山理事)

配布資料に基づき、10月11日にワシントンで開催されたWOFAPS Council meetingについて以下の報告がされ、了承された。本会から抗議文を出すかについては、様子を見ることとした。

#### 1.次期 Resident, Vice President について

2014-2016 President:Gupta, Vice President: Sigalet(President-elect), Shehata  
2016.5.22 EC で次期 Resident, Vice President は以下の様に決定され、2016.9.22 の WOFAPS new letter でも配信された。

2017-2019 President: Sigalet, Vice President: Shehata(President-elect), Kitagawa  
2016.10.11 council meeting で Pepe J Boix-Ochoa より 5.22 EC の Vice president elect が同票であったため council meeting で再選挙の提案。出席者の中で急遽再選挙が行われ、過半数をとった Baritella(ブラジル)が次期 Vice President に選出された。

2017-2019 President: Sigalet, Vice President: Shehata(President-elect), Baritella

#### 問題点

①規約では EC が次期 Resident, Vice President を propose し、council meeting が confirm するとなっている。3年に1度の council meeting が最終の議決権。

②EC の提案を反古にして、その場にいる人だけで再選挙するのは、正式な手続きか。

③council meeting の詳細な議事録を要求した上で、異議を提出した方が良いのでは？

2.クロアチアのメンバーより EUPSA は全欧州を代表する学会ではない。欧州の代表が一人であることに異議の意見があり、理事会で審議することになった。

理事メンバー:アフリカ1、アジア3、欧州1、中東1、北米1、南米1、中米1

3.次期開催地:2019 ドーハ(Sigalet)、2022 プラハ

### 4) 日本外科学会専門医制度委員会 (越永副理事長)

10月20日に開催された日本外科学会臨時理事会について、日本専門医機構への運営資金貸付について、【100万円+(200円×会員数 39,742名)=894万8,400円】を貸し付けることとしたと報告があり、学会以外の日本専門医機構の社員である日本医師会は5,000万円、四病院団体協議会は2,000万円、日本癌治療認定医機構は250万円をそれぞれ貸付ける予定であると報告がされ、了承された。

### 5) 日本小児連絡協議会 (黒田理事長)

2017年度開始の小児科専門医研修は、定員を含めてプログラム制とすることとしたと報告があり、了承された。

## 5. 審議事項

### 1) 第54回学術集会について (仁尾会長)

仁尾会長および和田庶務委員より、資料に基づき準備状況が報告提案され、以下のよう

に承認された。

(1) 抄録アプリの仕様、契約について日本コンベンションサービスのアプリを採用することが了承された。なお、中西印刷との契約については、通常の印刷契約とは別に財務会計委員長が別途交渉して新たに契約を進めることとなった。

(2) 小児外科学会非会員の招待、指定演者の接遇条件について、予算、ISSBA 海外招待者の Prof. Puri の接遇条件との整合性の観点から学会参加費(懇親会を含む)、宿泊 1 泊を支給することし、旅費、謝礼の支給なしということが了承された。

(3) 演題募集における倫理指針への対応について、対応のカテゴリー分類について倫理・安全管理委員会にて検討を進めていると報告があり、第 54 回学術集会演題募集時の倫理指針に関する項目については、他学会も探り探りの状態であり、現在日本外科学会で作成を行っているという情報もあるため、まずは日本外科学会の倫理指針作成の完成を待って、本会の倫理指針は日本外科学会の倫理指針を参考にして作成することとし、今回は「倫理的問題について演者の責任で解決の上、応募してください。」という文章に留めることが、了承された。

## 2) 第 55 回学術集会について (窪田副会長)

窪田副会長より、資料に基づき準備状況が報告提案され、以下のように承認された。

### (1) 日程

理事会・評議員会：平成 30 年 5 月 29 日(火)

総会：平成 30 年 5 月 30 日(水)～6 月 1 日(金)

教育セミナー：平成 30 年 6 月 1 日(金)～6 月 2 日(土)

### (2) 会場

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

### (3) テーマ

「家族の夢を紡ぐ小児外科:次世代への提言」

### (4) 招待演者

#### ①Iftikar Ahmad Jan

Consultant & Head of Pediatric Surgery Zayed Military Hospital Abu Dhabi, UAE

#### ②早崎 治明先生

新潟大学医歯学総合病院 小児歯科学分野

小児障害者への歯科治療

#### ③鈴木 理絵さん(画家)※学術集会ポスター作成者

文化講演

### (5) 理事長講演、会長講演、次世代への提言セッション

## 3) 庶務委員会報告 (藤野副委員長)

藤野副委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

2016 年 9 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,842 名 (うち海外 3 名)、評議員

309名、名誉会員53名（うち海外7名）、特別会員70名（うち海外1名）の合計2,274名である。

#### 4) 財務会計委員会報告（渡井委員長）

渡井委員長より、第31回秋季シンポジウム会計について提出があったと報告があり、一部修正依頼を行っているとの報告があり、了承された。

#### 5) 各種委員会報告および審議事項

##### (1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

##### 1. 投稿論文の採択状況(2016.9-10月)※2016.10.20時点

・新規投稿

9月:6編(原著1編、症例報告5編)

10月:7編(原著2編、症例報告5編)

全投稿数:82編(原著19編、症例報告62編、総説1編)

・採択

9月:6編(原著0編、症例報告6編)

10月:3編(原著1編、症例報告2編)

・不採択

9月:2編(原著1編※1、総説1編※2)

※1 修正依頼(査読結果通知)より2年を経過したため自動的に取り下げ

※2 No.16063:日本における小児外科医の育成について

→内容が原著でも総説でもなく、「NPO法人 中国四国小児外科医療支援機構の調査報告書」のため、査読者から意見があり内容を確認し、地方会や研究会の報告と同様の扱いとし、査読なしで有料のページへの掲載を勧めた。

・査読者辞退

9月依頼:1名

10月依頼:4名

##### 2. 超過料金の見直しに伴う、投稿規定の改定について

理事会の承認により、2017年1月1日より、投稿規定の該当部分を以下のように改訂。

「10. 掲載料,別冊代金,図表作製料

掲載料として一律10,000円を申し受けます(依頼原稿はこの限りではありません)。また原著,総説は刷り上り4頁まで,症例報告は同3頁までを無料とし,超過分は1頁15,000円を著者負担とします。地方会・研究会の抄録は1頁15,000円です。」

##### 3. 転載許可申請について

(1) 医学書院 標準小児外科学(第7版)(2017年1月発行予定)に関して窪田正幸先生より、水田祥代著:Hirschsprung 病の診断と術式の変遷 40巻:717-736,2004の中の図の転載許可があり、許可

(2)日本小児放射線学会より、西島栄治著:腸回転異常の概念と分類(37巻:749-753)の中の図の転載許可があり、許可

#### 4. 査読者の手引きの作成について

査読を公正かつ円滑に行うために、査読者の選定基準や、査読方法に関して一定の基準を設け、査読者の手引きを作成するべく検討中であり、次回委員会で草案を作成予定。

#### 5. 学会記録に関する内規改訂について

学会記録に関して、会長がすべてを取り仕切る現行の方法では、原稿の依頼、督促、回収業務など、会長への負担が大きいうえ、会長の裁量で記事のページ数が増えて財政に負担が生じるため、構成案を機関誌委員会で作成し、原稿執筆の督促、回収は中西印刷が行うように、内規の改正案を作成したが、中西印刷から「学術集会ならびに秋季シンポジウムにおける原稿の依頼、督促、回収業務につきましては、現時点で契約内容に含まれてないため相談させてほしいとの申し入れがあり、次回委員会で中西印刷と協議を行う予定。

#### 6. 優秀論文の選定について

以下の選考手順に従って 11 月から選考を開始し、2 月末までに候補を決める予定。

- 1 投稿されたすべての原著、症例報告を各論文2名ずつ委員に振り分け、採点。
- 2 一次審査で合計点の高い原著、症例報告を各5編選び、もう一度全員で採点を行う。
- 3 機関誌委員会を開催し、得点上位 2-3 編から最終的に原著、症例報告各 1 篇を選定して理事会に推薦。

#### 7.PSI投稿時のNative English Speakerによる証明について

今まで証明証には、校閲者・投稿者双方の署名を必ず必要としていたが、チェックを受けているという証明があればいいため、署名については不要とした。

#### 8.海外からの発表の投稿について

海外からの発表の投稿について、新たにスポンサーを付けなければならないとする案が出されたが、今まで通りスポンサーを付けることは不要とした。

### (2) 国際・広報委員会報告（黒田担当理事）

黒田担当理事より、以下の報告があり承認された。

- ・海外に日本の専門医の基準を見せるため、学会 HP 上に小児外科専門医の英語版の紹介文の作成、掲載を進める。

### (3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

#### 1)新設された内視鏡手術についてのアンケート結果

10月1日からアンケートを回収しているが、回答は22施設にとどまっているため、締め切りを11月12日まで延長し、認定施設および教育関連施設の責任者宛にアンケート回答の依頼をメール配信する。

外保連へ提出予定の内視鏡手術の医療材料調査については、これまでに6施設から回答

があり、合計症例数は胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術11例、腹腔鏡下総胆管拡張症手術15例、腹腔鏡下腸重積症整復術7例である。

#### 2)診断の技術評価(診断・治療方針決定難易度)の依頼

10月17日に内保連から外保連を通じて外科系疾患に関して「診断の技術評価(診断・治療方針決定難易度)」の依頼があった。当学会の分担は12疾患で、難易度A~Fを決めてほしいというものである。外保連へ提出する締め切り(10月7日)を過ぎていたため、委員会内で緊急メール審議を行い、12疾患の診断・治療方針決定難易度を決定した。

#### 3)平成30年度診療報酬改定要望の進捗状況

10月28日に委員会を開催して、下記項目の中から技術新設(5項目まで)と技術改正(8項目まで)を選定して要望順位を決める。結果については11月中に日本外科学会および外保連へ提出する。

### (4) 教育委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

第 33 回日本小児外科学会卒後教育セミナー及び第 8 回日本小児外科学会内視鏡手術セミナーについて

第 54 回学術集会に合わせて、平成 29 年 5 月 13 日(学会終了後の夕方から、仙台国際センターにて)、14 日(終日、会場未定)に開催を計画している。

卒後教育セミナーは連続 3 回(3 年間)のセミナーで 1 シリーズを構成する内容となるが、今回は第 3 回となり「腫瘍」をメインテーマに開講。その他に、トピックス、小児外科関連領域の講義を設ける予定である。

又、内視鏡手術セミナーについては、例年通り1噴門形成または脾臓摘出、2基礎的な内視鏡手術の二本立てを予定している。

両セミナーの日程を『小児外科学会雑誌』52 巻 7 号(2016 年 12 月 20 日公開)の会告頁で通知、詳細情報については、53 巻 1 号(2017 年 2 月 20 日公開)に掲載予定である。

### (5) 悪性腫瘍委員会 (米倉担当理事)

米倉担当理事より、今回特に報告がない旨述べられた。

### (6) 学術・先進医療検討委員会 (八木担当理事)

八木担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

#### 1. 会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可

4月3日に、和歌山県立医科大学第二外科窪田昭男先生より、「右全肺型 BPFM の右肺全摘後の Tissue expander の必要性に関するアンケート」について依頼があり委員会で審議した結果、再検討の依頼を4月13日に通知した。

その後、9月14日に再提出があり、9月23-30日までに委員会で審議を終了した。

9月23日-30日まで理事会審議を行い、理事会での再検討課題が挙がり、10月4日-16日

まで再審議が行われた結果、承認しないという結論に達し、10月19日に依頼者に通知を行った。

今後の委員会開催予定: 10月28日

(7) 倫理・安全管理委員会 (漆原担当理事)

漆原担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

1. 第 54 回日本小児外科学会学術集会(仙台)での医療倫理講習および感染対策講習について

医療倫理講習 2017年5月12日 17:20~18:20

講師 高田史男先生 北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学講座 教授

演題 未定

感染対策講習 2017年5月11日 17:40~18:40

講師 賀来満夫先生 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座

感染制御・検査診断学分野 教授

演題 未定

2. 倫理安全管理委員会だより

「小児の静脈血栓塞栓症のお話」を HP に掲載。今後も継続予定。

3. 10月27日に委員会開催予定

(8) データベース委員会 (米倉担当理事)

米倉担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

・臨床データベース構築

厚生労働省が、小児領域のデータベースを整備するための事業費を約 1 億円拠出することになり、小児外科学会を含む小児関連学会 16 学会に配分される。

本会には700万円の予算があり、今年度末までにデータベースを整備する予定。

新生児外科全国集計:NCD-P による解析システム構築として 200 万円の予算を使用。

専門医制度:NCD と NTT-PC の連携に関する問題点の修正のために 111 万円使用。

悪性腫瘍登録:理事会と悪性腫瘍委員会で検討中。小児外科学会悪性腫瘍委員会と小児血液がん学会が連携。予後調査のみが悪性腫瘍委員会の登録では残る予定。

小児外科学会内で、研究会ベースでやっている調査があるが各々が独立した予算で調査を行っているので、この予算はそれらに配分することはしない。

・自施設データダウンロードについての理事会への答申

9月12日に開催されたNCD 運営委員会にて、自施設データダウンロードについて以下のように決定された。

1. ダウンロードの理由を確認したうえで、自施設へのデータダウンロードを認める(1 申請につき 1 回)。

2. 施設・診療科名、術者の氏名、医籍番号は除外する(術者の個人情報保護の観点から、特定の医師の治療成績が算出されることを防止するため)。

NCD運営委員会で次のような説明があった。

1.複数施設間で自施設データをまとめると NCD と同様のデータベースができる。それらが発表されることがないようにするための運用規定は、ベースとなるものを NCD が作成したのち各学会が定める。

2.申請からダウンロードまでの流れは、「各施設から各学会に申請→各学会が審議→各学会から NCD 事務局に申請→各施設にダウンロード」

3.ダウンロードされるデータの形式は、CSV 形式(Excel で開ける)。施設の責任者だけが施設内の 1 つのコンピュータで開くことができ、ダウンロードデータのコピーは許可されない。

4.ダウンロードは1回のみ可能になる。

以上の概要を第4回NCD小児外科領域会議でアナウンスする。

また、データベース委員会が申請窓口の責任者となること、運用規定に関するWGを組織し小児外科学会の運用規程案を作成する。

- ・第4回 NCD-小児外科領域会議

PSJM期間中に開催される第4回NCD-小児外科領域会議の議題は以下の通り。

1. NCD小児外科領域Audit

2.その他報告

3.質疑応答

- ・高難度手術更新 WG

「NCD-P の高難度手術(医療品質評価対象手術)」の追加・削除を検討するための WG が作られ、10/3 からメール審議が行われた。

1.専門医制度専門医認定委員会において、これまで指導医に40例必要であった症例数を、必須手術と準じる手術だけで32例にすることが大筋で決まっている。

2.「NCD-P の高難度手術(医療品質評価対象手術)」と「専門医制度における指導医認定対象手術」の運用については個別に対応する。

3.現行の医療品質評価対象手術 (虫垂炎を除く)が選ばれた理由

1)必須手術や準じる手術になっているために、項目数が多くても入力に対する不満が出ていくと思われたこと。

2)それなりに難度が高いこと(指導医認定の基準なので)

3)ある程度まとまった例数が行われていると予想されること。

4)2011 年、2012 年などのデータで死亡率が高いことが分かっていること(イレウス手術、消化管穿孔)

4.ロードマップ:

1)医療品質評価手術は、2017 年症例より導入する。

2)指導医認定手術は、2018 年以降の申請から導入する。

2015 年データの手術数、手術時間、合併症発生率などを、現行の医療品質評価対象手術と、追加候補となる医療品質評価対象手術について算出し、次回 10/28 の第 4 回 DB 委員会において、基本的には何らかの術式を加える方向で検討を行う。

・泌尿器学会のNCDへの参加にともなう小児泌尿器科学会との連携について  
泌尿器学会が来年度からNCDに参加する事になり、本会と泌尿器学会の小児外科の分野で同じ症例が登録されることが予想される。窪田理事を介して泌尿器学会に声掛けしてもらい、症例登録に関する意思統一を行うこととなった。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、以下の報告があり承認された。

・来年の救急セミナーの内容について持ち回り委員会でテーマおよび講師を決定し、検討を行う。

(10) 利益相反委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下の報告・提案があり承認された。

・現在の利益相反自己申告書のフォームを確認し、役員および各種委員会委員向けに確認作業を今後行う予定。

・倫理指針の改定については、日本外科学会の倫理指針を確認後に、原案を作成予定。

(11) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき、以下の報告・提案があり承認された。

・ポジティブアクションとしての女性評議員数 10%に向けて

HP 上に「女性小児外科医の活躍の場を上げませんかー評議員選挙への積極的な立候補を」と題し、理事長名で立候補を促す文面を載せる。

WLB 検討委員会の男女共同参画推進活動の一つとして、女性の積極的な立候補を勧めるメールを送る(WLB 検討委員会名で送信)。

・第 4 回講演会について

PSJM2016(大宮)での開催は 10 月 27 日 19 時~20 時第 2 会場国際会議室。

日本医師会との共催という形をとっており、費用の支援を受けられる予定。

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

・移行期支援ガイドブック

国立成育医療研究センターが主管である小児慢性特定疾病児童成人移行期支援モデル事業から冊子化の支援をうけ、10 月 20 日に移行期支援ガイドブックが完成した（同理事会で配布）。

(13) 規約委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、今回特に報告がない旨述べられた。

8) 選挙管理委員会報告について（藤野委員）

藤野委員より、第 23 回評議員選挙公示文書が示され、選挙管理委員会で模擬選挙を行いシステムの動作確認を行ったことと、11 月中旬に会員に有権者名簿の確認と評議員立候補を受け付ける案内をメール配信にて行うと報告があり、了承された。

9) 理事会内申し合わせについて (黒田理事長)

前回理事会で継続審議となった、前理事長の理事会陪席について、理事会内申し合わせの改定案が提示され、改定が承認された。

なお、現在の運用で合わない点があるため、次回理事会時に更新した理事会内申し合わせを再度審議することとなった。

10) 秋季シンポジウム委員会について (黒田理事長)

委員会数が増えた事により、PSJM2016 期間中に開催される秋季シンポジウム委員会に出席できない委員が多いと報告があり、また、期間中に開催されるイブニングセミナーについても同時間帯で開催される委員会等で参加者数が減ると企業からの協賛金も減ることが予想されると問題提起がされた。今後 PSJM 期間中に開催される委員会等含めあり方について検討することとなった。

11) 次回定例理事会日程の確認 (黒田理事長)

次回理事会は平成 29 年 1 月 18 日 (水) 11:00~16:00 日本外科学会会議室にて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

副理事長 \_\_\_\_\_

理事 \_\_\_\_\_